令和元年度災害廃棄物処理参加型研修モデル事業（京都府）

演習の目的

- 各自治体の災害廃棄物処理計画の策定推進、内容の深化
- 災害廃棄物処理の諸課題に関するロールプレイを通じた、担当者のスキルアップ

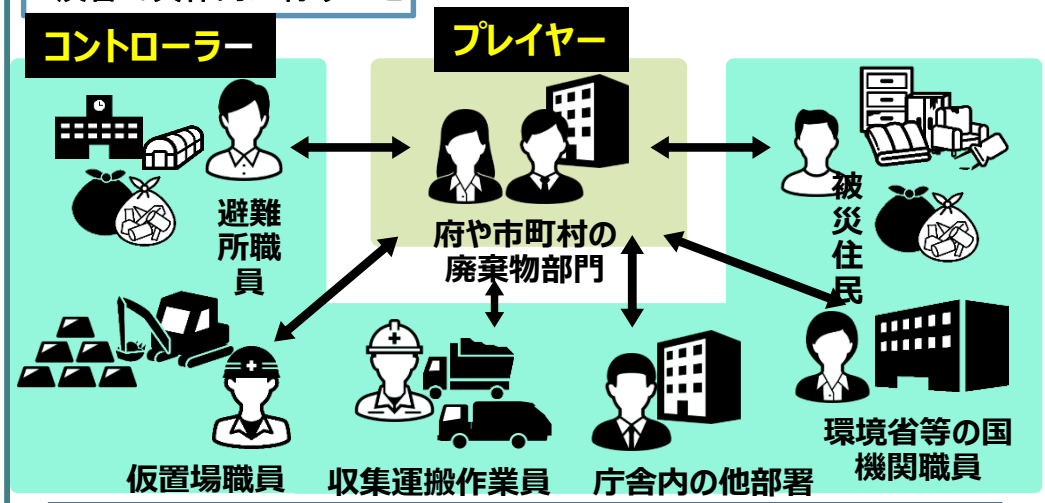
実施概要

- 実施日時：第1部：北部（R1.10.15）
  南部（R1.10.17）
  第2部：A日程（R1.11.11）
  B日程（R1.11.12）
- 参加者：府内市町村担当者／一部事務組合担当者／京都府職員／（オブザーバー）協定締結団体職員

	第1部　説明会・事前講義・ワークショップ
内容	● 研修及び図上演習についての説明 ● 災害廃棄物処理に関する事前講義 ● ワークショップ 災害廃棄物処理の手順書の素案を用いて改善点を検討（図上演習では改善した手順書に基づいて作業を行う）

時間（A日程の例）	第2部　図上演習　内容
10:30～11:10	開催挨拶、図上演習の進め方
11:10～11:40	演習資料の確認
11:40～12:40	【図上演習Ⅰ】 災害廃棄物量の推計と仮置場の選定 片付けごみ、生活ごみの収集運搬体制
12:40～13:30	昼食休憩
13:30～13:40	状況付与意図説明Ⅰ
13:40～14:40	【図上演習Ⅱ】 1次仮置場の設置・管理 片付けごみ、生活ごみの収集運搬 一次仮置場ごみの処理方針
14:40～15:40	状況付与意図説明Ⅱ
14:50～15:15	発表資料作成
15:15～15:25	休憩
15:25～16:20	各班報告＋質疑　（各班　発表6分　質疑2分）
16:20～16:55	振り返り、講評

演習で具体的に行うこと



①シナリオ・状況付与に沿って行動、状況に対応 → ②報告事項とりまとめ → ③報告（発表）

演習は、この部分の繰り返し

模造紙を用い報告事項を整理。

上司への報告等を想定。

図上演習の流れ

事項	想定内容
対象とする災害	水害とし、対象市の半分弱が床上・床下浸水している状況
対象とする自治体	人口3.5万人程度の市とし、周辺の自治体と一部事務組合を構成して廃棄物処理を実施
図上演習の内容	京都府災害廃棄物処理計画の流れに沿ったもの 災害廃棄物量の把握、一次仮置場の設置・管理から一次仮置場の災害廃棄物について処理方針の決定までとし、その間に廃棄物収集運搬体制の確立及び収集運搬にかかる課題への対応をする
収集運搬の対象とする廃棄物	災害廃棄物と生活ごみとし、避難所ごみは取り扱わない し尿も、取り扱わない
一次仮置場について	水害の場合、水が引くと災害廃棄物の排出が始まるために、一次仮置場の設置を早急に進める 指定場所以外に災害廃棄物が蓄積される「勝手仮置場」は演習の対象としない

今後の図上演習実施にあたっての課題の抽出・対応策の検討等

図上演習の成果

●全般的な成果

① 参加者の間で、平時準備の重要性について再認識が進んだ。とくに、手順書の必要性が認識された。

② 図上演習を実施することの必要性が認識された。

③ 自治体や一部事務組合の参加による図上演習の実施は顔の見える関係づくりに繋がった。

● 参加型研修設計上の成果

① 二部構成とすることで、事前講義やワークショップを持つことができた。第1部を実施することで、図上演習実施前から災害廃棄物への意識を持ってもらうことができた。

② 一次仮置場については京都府の計画に示されている内容を、時間の経過とともに実施していく図上演習を実施した。ただし、予定した課題が完了しないまま次に進むという課題が残った。

③ 府班では、被災市班の支援という役割をもった演習内容とし、参加者に作業内容の具体的なイメージを持ってもらった。

④ 被災市の状況をより詳しく提供することで、演習の内容がより具体的になった。

⑤ 有識者には、第1部と第2部の両方に参加してもらい、研修全体について把握し、評価をしていただいた。

⑥ 図上演習実施への府県を超えた協力によりファシリテーターを配置することができた。

今年度 明らかとなった課題と対応策（抜粋）

課題	主な対応策/方向性
災害廃棄物処理の流れに沿って演習を行う際の、課題間での被災市がおかれる状況の連続性の確保	各演習終了後に、状況付与の意図説明を行ったが、その際に次の演習フェーズで被災市がおかれる状況の説明を行う・
被災市班と府班で作業結果をやり取りする場合の待ち時間	府班にファシリテーターを配置することによって、作業を進行。 市班の作業の遅れについては、府班から結果報告を催促する対応を取ることにより、改善。
事前に想定していたシナリオからのずれが発生すると対応が難しくなる	コントローラーやファシリテーターは、シナリオに沿って課題を進めることが、より多くの課題に対応することになることを認識し、早期に議論の軌道修正を行うように誘導する
図上演習の前に前提条件等を確認する時間の長さ	演習前のできる限り早い段階で参加者に配布資料を送り、事前確認の時間を確保する。その際、資料の要点となるパワーポイントの資料を同封し、理解を促進させる工夫をする
図上演習参加者の経験知識を考慮した演習内容の設計	経験者と未経験者が混じることによってよい効果が出る場合も多いが、ほとんど未経験の職員が多いと弊害となる可能性もあるので、事前に職員の経験度合いを把握
ファシリテーター向け説明の充実	他府県からのボランティア的な参加であり、多大な負荷をかけることはできないが、早期に演習の狙いなどが分かる資料を送付
災害廃棄物処理に関する基礎知識や事例等を知るための事前学習が必要	配付資料は早期に参加者に送付すると共に、要点をパワーポイントで作成して同送する。 単に資料を読むだけではなく、実際に手を動かす簡単な課題を出して、事前学習をしてもらう
災害や被災市の細かな設定	実感するには、写真を用いることが必要。 演習中に被災自治体の状況が変化していくので、それも含めた状況の掲示を行う

災害廃棄物処理上の課題(抜粋)

課題	主な対応策/方向性
どうしても発生する「勝手仮置場」への対応	自治体によっては、一次仮置場の確保状況、行政が管理できる集積所設置の可能性などの状況が異なる。 住民への広報も必要であるので、この点については計画に反映する。
府の被災市町村支援のあり方	被災自治体の状況を把握して、状況を先取りする対応が取れるようにする。 図上演習を実施することで支援のあり方が明確化されていくので、今回のような府班と被災市班でやり取りを行うような演習を繰り返し実施する。